

JOYO BANK NEWS LETTER

平成 29 年 3 月 3 日

株式会社 常陽銀行

法人向けインターネットバンキングとTKCフィンテックサービスの「API連携サービス」の共同構築について

常陽銀行（頭取 寺門 一義）と株式会社TKC（社長 角 一幸）は、当行が提供する法人向けインターネットバンキングとTKCの企業向けフィンテックサービス「銀行信販データ受信機能」のAPI*連携実現に向けて、平成29年6月のサービス開始を目標に検討を進めることに合意しましたので、下記のとおりお知らせします。

API連携の実現により、法人向けインターネットバンキングをご利用のお客さまは、預金残高や入出金明細データをTKC財務会計システムに直接取り込むことが可能となるため、より安全にTKCフィンテックサービスをご利用いただけるようになります。

当行は、今後とも、お客さまに最適な商品・サービスの開発を進め、総合金融サービスの充実に繋げてまいります。

※API（アプリケーションプログラムインターフェース）は、外部のサービス等とデータ連携を可能とするためのプログラムや接続仕様をいいます。

記

サービス名	API連携サービス（仮称）
サービス概要	インターネットバンキングからTKCの財務会計システム（FXシリーズ）へ、直接、預金の残高や入出金データを取り込むサービス。 
お客さまのメリット	インターネットバンキングに使用するIDやパスワードをTKC財務会計システムに登録することなく、直接かつ安全に預金の残高や入出金データを取り込めるため、仕訳事務の効率性及び正確性が向上します。
提供予定	平成29年6月（予定）

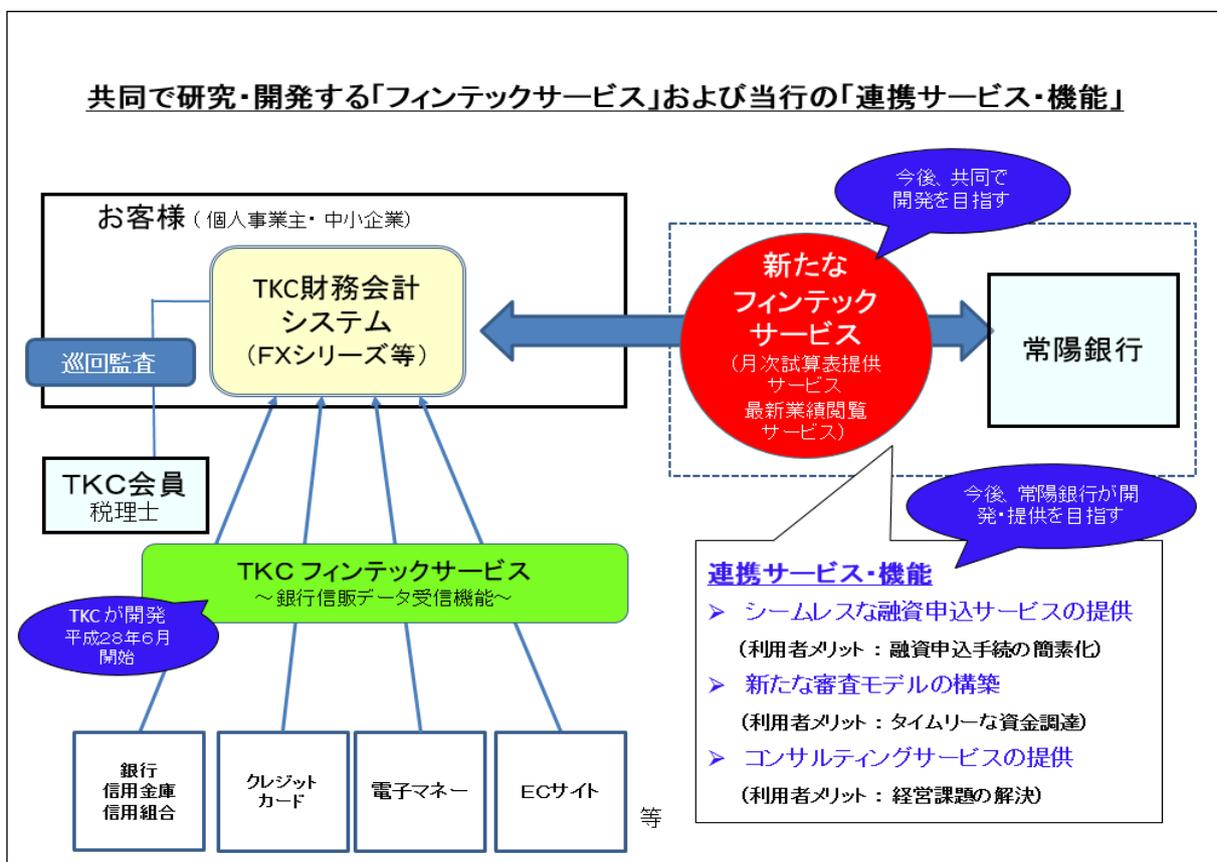
以上

【ご参考】

1. 株式会社TKCとの提携内容について

当行は、株式会社TKCと平成28年4月に業務提携し、株式会社TKCが開発する新たなフィンテックサービスについて共同で研究し、利用促進に取り組んでいます。

また、株式会社TKCが開発する新たなフィンテックサービスを活用して、下図のような中堅・中小企業のお客さまの利便性を高める新たなサービスの検討を進めています。



2. 株式会社TKCの企業向けフィンテックサービス「銀行信販データ受信機能」について

株式会社TKCは、財務会計システム（FXシリーズ）の機能強化として、平成28年6月からTKC会員（税理士・公認会計士）の顧問先企業にフィンテックサービス「銀行信販データ受信機能」を提供しています。

本機能は、全国で99%超の金融機関※（法人口座）のインターネットバンキングサービス等の取引データや、主要なクレジットカードの明細を自動受信し、あらかじめ設定した仕訳ルールをもとに正確な仕訳を簡単に計上できるよう支援するものです。

平成28年12月31日現在で本機能の利用企業数は、約1万1,000社となっています。

※都市銀行、地方銀行、第二地方銀行、信用金庫